



楽生苑ひなたの家

平成21年4月
新設オープン

楽生苑ひなたの家は、生口島南側に開設する初めてのデイサービスとして今年4月にスタートしました。



海と山を一望できる民家を改築し、昔ながらの落ち着いた空間と居心地の良さを併せ持つ恵まれた環境の中でサービスを提供しています。

楽生苑での「真ごころ・思いやり・助けあい」の精神を大切にしながら「地域に密着したサービス」を目指しています。

まず、私たち職員が、大切にしているのは「あなたの出番」のサービスを作っていくことです。利用者の主体的な関わりを目指し昼食準備やおやつ作り、野菜作りや収穫などを一緒に行っています。

ひなたに参加することで、もう一度自分の役割や社会的な有用感を感じていただき、その過程で笑って過ごせる時間や居心地のよさを感じていただけたら、私達職員も幸せです。

昼ごはん作り・おやつ作り、
野菜作り・野菜の収穫を
もう一度!

出番ですよ~



島の人の温かさや日向の心地よさを感じながら

開設して3か月ですが、これまでも係わって下さった多くの皆様の善意や思いやりに支えられていることを感謝しています。

これからも温かいお気持ちで「ひなたの家」の成長を見守り下さいますようお願いいたします。



ちらし寿司・茶碗蒸し・きゅうりとわかめの酢の物・煮物が出来上がりました。
「私は昔、ちらしに あげを入れよった」など、会話をしながら、毎日様々な昼食を作っています。

特別養護老人ホーム楽生苑

特別養護老人ホーム ご入所者様専用
たんぽぽ&ひまわりユニット

尿路感染の予防

私たちはお年寄りの皆さんの生活全般のお手伝いをしています。今回は、そのうちの排泄の事についてお話したいと思います。

楽生苑では、尿路感染を予防するためにおむつ交換時、毎回ぬるま湯で洗浄しています。同時に尿が濁っていないか、量は充分に出ているか、悪臭など異常はないか、便の色、形状などを観察し必要に応じて検尿、検便をしています。

その他にも、皮膚に傷や赤みがないかなども観察し、褥瘡(床ずれ)を作らないように日々早期発見に努めています。



たんぽぽユニット
ホットケーキ作り



特別養護老人ホーム ショートステイご利用者様専用
なのはなユニット

ご家族様の休息の場として

なのはなユニットがショートステイ専用のユニットとなり、一年半近くたちました。

新規の利用者様・顔馴染みの利用者様と、常にコミュニケーションをとり、少しでもご自宅と同様にくつろいでいただけるよう、試行錯誤の日々を送っています。

時には「なぜここにいるのか」「いつ帰るんだろう」と尋ねる方もおられますが、「私は若い者にまかせて、ここにきている」と利用されている方もおられます。日常会話で地域の様々な話も弾まれており、職員もその中に入れてもらい、長い時代を過ごされた貴重な話を聞かせてもらっています。

柑橘などで日々忙しいご家族様が休息に役に立てる場として、安心して楽生苑をご利用出来る様、職員一同、より一層努めてまいります。



特別養護老人ホーム楽生苑新型ユニット
いこいの里



ここは、いこいの里。

一つ一つの大きな窓がまるで一枚の絵画のように心を和ませてくれています。小鳥のさえずりと共に目覚め、西に沈む夕日をながめ、ゆっくり一日が過ぎていきます。



長年連れ添った伴侶の遺影と仏壇に思い出したように合唱する姿。

一心不乱に写経する姿。

詩吟の本を片手に忘れまいとかすれ声で練習する姿。

90歳過ぎても針をもち繕い物をする姿。

子供、孫達に元気だよと便りを書く姿。

いつ、お参りできるんだろ...と笑う顔は102歳。

頑張ってる働いた戦士の顔をのぞかせる顔も愛娘の面会には涙で顔がくしゃくしゃ。

お父さんどこに行ったのかしらねと天国のご主人を待ち続ける姿。



もう...皆いっぱい頑張ってるよ。体に重りが付いたように自由に動かなくなったけれど、いつも私達がそばに居るからいこいの里でゆっくり過ごそう。 ゆっくり。



デイサービスセンター楽生苑

地域の皆様 いつもありがとうございます

平成11年8月1日に開苑した特別養護老人ホーム「楽生苑」に併設されたデイサービスも、はや10周年を迎える運びとなりました。当初、数名ほどの利用者の方とスタートしたデイサービスですが、現在では定員37名で、たくさんのご利用者と一緒に楽しく一日を過ごしています。

地域の方々には送迎時などを通いいつも多大な協力・助言を頂き安全な送迎が行えることを深く感謝いたします。

また、多方面・他職種の方と連携をとりあひ苑訓である「真心・思いやり・助け合い」の精神を常に大切に日々向上を目指しております。みかんの花香るこの生口島で皆に愛され安心して利用できるデイサービスとして今まで以上に尽力してまいりたいと考えております。

10周年を期にこれからも皆様と同じ笑顔・同じ目線での介護が実践できる様、職員一同、気持ち新たにスタート地点に立ちたいと思っております。

居宅介護支援事業所

住み慣れた家で最後まで暮らすことができるように

楽生苑の居宅には4人のケアマネージャーが在籍しており、要介護認定が下りた方のケアプランを立てる仕事をしております。

自宅を訪問し、現在の生活状況や今後どのような生活を送りたいのか、ご本人・ご家族に希望をお聞きし、どうすれば自宅で援助を受けながら自立した生活が出来るのか共に考えていきます。高齢者が、自分の生き方に自信や誇りを持ち、笑顔で生活ができるよう、又、地域の一員としての役割を持ち、住み慣れた家で最後まで暮らすことが出来るようにするにはどうしたらよいか。その希望を叶えられるように援助していけたらと思います。

家族の中には、介護疲れで精も根もつき助けを求めている人たちがおられます。そういう方たちの気持ちを汲み取り精神的な面からも援助できればと日々頑張っております。楽生苑にとって10周年という節目の年に初心に戻って、地域の皆様のお役に立てるように頑張っていこうと心を新たにしております。

第14号 平成21年8月1日

発行編集 722-2416 尾道市瀬戸田町林1288-6

社会福祉法人新生福祉会

Tel: 0845-27-2943 Fax: 0845-27-2927

E-Mail: rakusei@violin.ocn.ne.jp



楽生苑だより

楽生苑開苑10周年に寄せて

理事長 伊原信夫



「ヒト」は他の大部分の生物と同じようにライフスパンを持ち世代交代を行う、つまり「老いる」という宿命を持っております。その「ヒト」という種族は悠久の種の進化の過程で自然を深く学習し、知恵を磨き、複雑な社会を形成し高度な文化を築き上げることに成功しました。その成果の一つが「老人を敬う文化」です。先日ある職員が私に向かって「年老いて幸せな社会はよい社会ですよ」と、まるで私が言うべき言葉を投げ掛けてきました。

わが楽生苑はこのような理想像を目標に据え、10年前に社会福祉法人として、当地瀬戸田町に設立されました。

この間、政府諸機関の方々をはじめ、地域リーダーの方々、一般住民・ご利用者ご家族の方々のご協力ご支援を給わり、そのおかげで今日まで堅実な足跡を印すことが出来ました。今後も我々職員一同、「真ごころ、思いやり、助けあい」の苑訓を心に刻み、「介護文化創成」の旗印を高く掲げ、誇りをもって日夜の介護関連業務に邁進する所存です。地域住民の皆様には今後も引き続き、倍旧のご支援ご協力を給わりますよう心からお願い申し上げます。

健康道場

その①



里ではみかんの木の芽が勢よく伸び、山々

の樹が青々と生い茂るこの季節、自然界は同時に人間の健康に役立つ色々な草木を育てます。我々はこの自然の恵みをもっと謙虚に学び取り、体験してみるべきであると思います。

さて、この度、再刊することになった「楽生苑だより」では「健康道場」を誌上開設致します。ここでは健康長寿に役立ついろいろな自然産物をシリーズで取り上げます。実際に多くの人々がそれらを食膳に供したり、おやつ或いはお薬として頂いたりすることによって、その効果を実感されることを期待しています。やがてはその効果が地域社会の知恵として共有されるとともに、自然(里山)を大切に再生循環型の医療文化として、子孫に伝承されるきっかけになればと願っております。

私はこの医療文化こそ新しい医学の、一つのかたち、一縷の、そして大きな流れになると確信しております。

前置きが長くなりましたが、今回は漢方でよく使う「葛根」即ち「クズ」の根を取り上げます。「クズ」と言えば、山里の土手のようなところなら何処にでもよく見かけるマメ科の植物。蔓性で夏期にはいろいろなものに巻き付いて大繁茂しているその有様は誰

しもよくご存じ。その根っこを「葛根」と言い、クズ饅頭の原料となると言えば、なるほどと思われる方も多いただろう。漢方ではわかりやすい表現で、解熱、咽の渇き、頭痛、肩こり、下痢などの症状に、病名で言えば、感冒さらには昨今話題になっているインフルエンザ、鼻炎などに効くとされる。有効成分を考慮すると、高血圧症、脳や心臓などの動脈硬化、認知症の予防、前立腺肥大症、一部の婦人病などに効くと思われるが、これからの研究課題でもある。

そのクズの粉末を煎じてご老人のおやつにした。勿論、上記のような疾患の予防のためである。

(1)300mlの水にクズの粉末10gをいれてかき混ぜ、それを5分間煎じる

(2)煎じ終われば、甘味料(さとう、蜂蜜、糖尿病の方にはアスパルテームなど)を加える

(3)適量のかんてん粉末またはゼリーのもとを加えて型に流し込み冷却する

漢方で使う「クズ」は饅頭に使う「クズ」と違って、デンプンの他に色々な成分を含むので、少し漢方特有の匂いはするが、殆どのご老人たちは喜んで食べてくれた。本当のおやつのように続けて食べてくれるかどうか、それは今後の問題ではある。

ケアハウス楽生苑

安心して生活していただけるケアハウスを目指して

皆さん「ケアハウス」の Care(ケア)という言葉の意味をご存知ですか、ケアとは本来、弱者・患者・障害者の世話をして「あげる」といった意味を持っており、強者からのサービスというニュアンスがあるそうです。そのため今日欧米では徐々に使われなくなり Attendant service(アテンダントサービス)の言葉に切り替わりつつあると聞いています。しかしよく考えてみますと、ケアハウス楽生苑では職員である私たちが、人生の大先輩であるお年寄りから豊富な経験や知識を学び、精神的な Care(ケア)をしていただいているような気がしています。

振り返りますと様々な試行錯誤を重ねつつ、この度開苑十周年を無事迎える事ができました。とはいえ、重症の方々の入居が続いたので、医療面での対応に緊張感を持ち、「医療・介護一体型」のケアを実践しております。

このようにして、入居者と職員、そして全ての関係者が互いに支え合い築きあげた十年間のような気がします。

これからも苑訓である「真ごころ・思いやり・助けあい」の精神を基とし、今後五十年さらに百年、入居者の皆様に安心して生活していただける「ケアハウス楽生苑」を目指してゆきたいと思っております。



老いの青春讃歌
 つ日も来て
 かり握手貴女を診る
 戦禍の青春重く老いにし
 平生